

新年あけましておめでとうございます。  
今年もどうぞよろしくお願いいたします。  
お隣り、前後ろの方々にも挨拶いたしましょうか。  
前奏がありますので、黙想のうちに心を静め、主を待ち望みましょう。

「一つとして下さる神」

箴言 17 : 1, 15 : 17  
エゼキエル書 37 : 15 - 19  
January.1.2026

箴言 17 : 1、15 : 17 (パワポ)  
エゼキエル書 37 : 15 - 19 (パワポ)

### Preface

聖書の最初の書物創世記に記録されていますノアの子孫たちは、バベルの塔を建て上げました。

その理由は、神なるお方に敵対するためでした。

ノアの時代、自分たちの暴虐と墮落ゆえに大洪水によって滅びたのを忘れることなく記憶して、神の言葉に従い、「再び滅びてしまうような罰を受けないように」と考えるのではなく、「神とやらが、また洪水をもって滅ぼそうとした時には、頑丈で大きな塔を建てる程の我々の技術力や能力に頼ろう。塔のてっぺんに上って、生き延びよう」と、バベルの塔を建て上げました。

その時神様が、その者たちに下された罰が、とても特異な風変わりなものでした。

火と硫黄のようなものを天から降らせたわけでもなく、再び大水をもって大洪水を起こされたわけでもなく、彼らの話し言葉を、全地に住む人々の言語を混乱させるというものでした。

それが、神が彼らに下された罰でした。

そのため、突然、互いに言葉が通じなくなってしまう、一緒に住むことが出来なくなり、地の全面に散っていき、散らされて行きました。

互いに言葉が通じなくなってしまったために、結局、敵となり、仇となり、いがみ合い、互いに譲らず対立し、この地に争いが起こり、紛争が起こり、戦争が起こる、他に地獄がないとも言えなくもないような世界となりました。

### Part One

そして今から2000年前、教会の誕生日とも言える五旬節の日、ペンテコステの日には人々が熱心に祈っていると、復活し天に昇られたイエス様の御言葉通りに、彼らは約束の聖霊を受けました。

聖霊を受け、聖霊に満たされた時、先ず最初に人々にあらわれた賜物が異言で

した。

御霊が語らせるままに色々な言語で、言葉で、一様に神の大きな御業を語り始めたのです。

この時の彼らが語った異言の意味が、何だろうかと考えてみますと、それは、先ほどお話しました、創世記 11 章に記されていますバベルの塔の時、地の全面に散らされた言葉が、言語が、再び一つに回復する現象だったということです。

使徒の働き 2 章に記されていますその時起こった時の場面を見てみますと、「天下のあらゆる国々から集まっていた人々は皆、『あの人たちが、私たちの言葉で神の大きな御業を語るのを聞くとはい』と、呆気にとられるほどに驚き不思議に思った」と書かれています。

つまり、言葉が通じ合い始めたということです。

聖霊なる神様のお働きによって、てんでバラバラになっていた言葉が、言語が、神の御業を一様に語るということを通して通じるようになり、言葉が通じるから、心が通じるようになりました。

神を知り、神の御言葉を語ることをもって、人々の心が一つとなっていきました。

バベルの塔の時とは、真逆のこと、反対のことが起こりました。

バベルの塔の時には、人々が散って散らばって行き、一緒にいることが出来なくなっていました。2000年前に初めてできた最初の教会、初代教会、聖霊を受けた教会にあらわれた重要な現象は、人々が心をつにして、熱心に集まり始めたということです。

一つとなり始めました。

特定の場所や空間にただ集まっているような“一つ”ではなく、心が一つとなり始めました。

「私のもの、あなたのもの」とそれぞれが、それぞれに、自分の所有権を主張するのではなく、所有のある人、所有の無い人が一緒になって、それぞれの必要に応じて用いる天国の生き写しのような共同体となっていきました。

ここに、重要な教えがあります。

聖霊は私たちを一つとなるようにされ、聖霊を御霊を消してしまった時にあらわれる現象は、散り散り、衝突、いがみ合い、さばき合い、争い、戦いだということです。

## Part Two

人生を生きていますと、とても辛く、苦しく、苦痛なことが沢山あるように思えます。

皆さんにとって、ここまで生きて来られた中で、最も苦しく、辛かったことは何だったのでしょうか？

務めているところが経営破綻したとか、経済的な困窮に陥ったとかということも、相当苦しく辛いことだと思います。

または、病気になり、闘病生活を送るようになるというのも、当然ながら辛く、苦しいことだと思います。

ですが、最も辛く苦しいことは、不仲、不和、仲たがい、人間関係が悪くなることではないだろうか、と思います。

皆さんはいかがでしょう。

人間関係が悪くなること、仲が悪くなること、いがみ合うこと、憎むようになること、争うようになること、分裂してしまうこと、別れること、これこそが、私たちの歩みにおいて最も大きな不幸ではないでしょうか。

今年の主題聖句を箴言 17 : 1、箴言 15 : 17、エゼキエル書 37 : 19 の御言葉と致しましたが、箴言 17 : 1 と 15 : 17 の御言葉にこう書いてあります。

**箴言 17 : 1 (パワポ)**

**箴言 15 : 17 (パワポ)**

さらに 16 節、

**箴言 15 : 16 (パワポ)**

私たちにとって、経済的な貧しさも当然ながら苦しみだと思いますが、そういった貧しさよりも、貧しさとは比較にならないくらい辛いのが、不和だともいいませんか。

不仲、対立です。

互いにいがみ合い、互いに憎み合い、互いに妬み嫌い、互いに争うならば、肥えた美味しい高級和牛をいつでも好きなだけ食べられたとて、そこに何の幸せがあるだろうかということです。

ドラマを見ていますと、こんな場面を見ることがあります。

登場人物の一人が、どこかの高級ステーキ屋さんでいつものように好きなだけ高級な牛肉を美味しそうに食べている最中に、突然携帯電話の呼び鈴が鳴り、誰かとの確執がさらに悪化して怒り沸騰するような出来事を告げられますと、それまで幸せそうな顔して食べていた牛肉が一瞬にして吹き飛んでしまうかのように、持っている箸やナイフ・フォークを投げ出して、「なんだと！ふざけんな！」と怒鳴りながら、苦虫を潰したような苦しい表情をする登場人物の姿が思い浮かびます。

どんなに美味しい高価な牛肉も、誰かとの、人との関係がさらに悪化する苦みや痛みや苦しみには敵いません。

また、我が家のことで申し訳ないのですが、こんなことも経験しました。

10年前にアメリカの神学校に学びに行った時、以前もお話しましたが、どう計算しても家族6人が3年間暮らしていくだけの生活費には全くもって足りませんでした。

なぜビザが下りたのか全くもって理解出来ない、神のなさった奇跡としか言いようのないアメリカでの生活が始まりました。

明日「もうダメだ」と、底をついた米びつを恨めしく思いながら、日本に帰国しなければならないかもしれないという恐れで心がいっぱいになってしまい、夜も眠れない時が良くありました。

そんな生活が始まって2ヶ月くらいが経った頃でしょうか、食材を買いにLAにあるコリアタウンに行った帰りに、久しぶりに家族皆で外食をしようと思い、とある韓国料理店に緊張の面持ちで入りました。

家族皆で初めてのアメリカでの外食というだけでなく、予算はチップを入れて多くても50ドル以下、出来れば40ドル以下で、「出来るだけ家族6人お腹いっぱい食べられたらなあ」とちょっと無謀な、また、「お金がないと、貧乏だと思われないか」とビクビクしながらの入店でした。

注文しようと店員さんと呼ばれますと、私たちの姿が貧乏そうに見えたのか、「料理一つ一つの量が多いので、料理を三つ頼んで、そこにご飯が三つ付いてきますから、それに別にご飯を三つ追加注文すれば大丈夫ですよ」とアドバイスをして下さり、出てきて料理を前にして感謝の祈りを献げ、家族皆で、久しぶりの本当に幸せな時間を過ごすことが出来ました。

親として、子どもたちにちょっと恥ずかしい思いをさせてしまっているという申し訳なさと、それでも「美味しい美味しい」と食べてくれている子供たちの姿を見ながら涙が出そうになる、なんだか心が締め付けられるようだけれども、本当に感謝なひと時でした。

正に、「乾いたパンが一切れあって平穏なのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。野菜を食べて愛し合うのは、肥えた牛を食べて憎み合うのにまさる。わずかなものを持って主を恐れることは、豊かな財宝を持って混乱するよりも良い」という御言葉を実体験させて頂き、今でもその時をことを思い出しますと、なんだか心が締め付けられるような不憫な思いになることがあります、決して忘れることの出来ない大切な主の恵みの思い出となっています。

### Part Three

主なる神様が、私たちに下さる最も大きな祝福のうちの 하나가平和であり、神の元を離れてしまった私たち人類が経験する最も大きな苦痛は、争い、憎しみ、いがみ合い、不和、対立です。

ダビデ王の時代、イスラエルという国は一つでありました。

日本の関東と関西が、当然のように一つであるようにイスラエルも一つでした。

ですがダビデ王の後、イスラエルは北と南に分裂します。

北王国をイスラエル、または、最大勢力であったエフライム部族の名前を取ってエフライムと名乗り、南をユダと名乗る二つの国に分裂してしまいました。

彼らが分裂するというのは、父なる神様の心にあって、正に神の心が引き裂かれるような痛みであり、神様にとってこれ以上ない痛みでありました。

そして神様は、そんな北イスラエル・エフライムと南のユダ王国を再び一つになさると、「あなたがたは、一つになるように努めなさい」とお命じになりました。

もう一度、エゼキエル書を読んでみます。

### エゼキエル書 37 : 15 - 19 (パワポ)

「その両方をつなぎ、一本の杖とし、あなたの手の中で一つとなるようにせよ。わたしは、あなたがたをわたしの手の中で一つとする」と仰ったこの時、北のイスラエル王国は滅びて100年以上の歳月が流れており、イスラエル・エフライムという国自体がもう既に無くなっていた時でした。

それでも、まだかろうじて、南のユダ王国は、捕囚として捕らえられて行ったり来たりしながらなんとか存在していました。

そんなイスラエルとユダを、神様は、「わたしの手の中で一つとする、あなたの手の中で一つとせよ」と仰います。

父なる神、御子なるイエス、聖霊なる神の三位一体なる神様は、ご自身が一体という一つなる完全な平和なるお方であるように、私たちを一つにされるお方です。

私たちに平和という祝福を下さり、和平という幸いを下さるお方です。

### Part Four

私たちは、教会の中で、家庭の中で、職場の中で、学び舎の中で、数多くの争い、葛藤を経験しながら生きています。

誰かと戦いながら、張り合いながら、ぶつかり合いながら、生きています。

敵となり、仇となり、敵（かたき）となりながら、生きています。

敵視しながら、忌み嫌い、毛嫌いしながら、生きています。

憎みながら、生きています。

事実上、地獄というのが、遠くのどこかにあるわけではないでしょう。

私たちが生きているその人生の現場、そこが地獄にもなります。

ですが主なる神様は、「わたしは、あなたがたを、わたしの手の中で一つとする」と仰います。

また、それと同じく、並列して、「あなたの手の中で一つとなるようにせよ」と仰います。

つまり、神様は、私たちが **Peace Maker** となることを望んでおられるということです。

山上の垂訓で、

### マタイの福音書 5：9（パウロ）

平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。

とイエス様がお語りになっている通りです。

神のことばです。

神の国の最も大事な特徴が、シャロームです。

平和です。

神様は、私たちに平和を下さるお方です。

死より復活なさったイエス様が弟子たちにお声がけした第一声は、「平和が、平安があなたがたにあるように」という言葉でした。

そのイエス様に、「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」と語り掛けられた使徒パウロ先生は、自らが平和を打ち壊す者であったことを悔い改め、「イエス・キリストを信じるキリスト者は、キリストに代わる和解の使者・使節であり、平和の務めを神より与えられた者たちである」（コリⅡ 5：18－20）と説きました。

また、「自分に関することについては、出来る限り、すべての人と平和を保ちなさい」（ローマ 12：18）と説きました。

ゆえに、主イエス様にある **Peace Maker**、平和をつくる者は、神の子どもと呼ばれるようになるでしょう。

それをもって、イエス様の弟子であることを人々が認めるようになるでしょう。

でも、この世は、平和をつくる者たちよりも、不和にする者たちの方が多いのかもしれない。

葛藤を起こし、争いを起こし、人の仲を裂き、戦争を企て、戦わせる、争わせる。

憎しみと嫉妬といがみ合いを起こし、不和を意図して起こす人たちがどれだけ多いことかわかりません。

平和をつくる者が神の子であるならば、不和をつくり出す者はサタンの子にならないでしょうか。

ここで私たちが深刻に考えたいのは、「神を信じない世が、神を信じない人々がそうであるのは、まあ致し方ないことなのかもしれない。神の子ではないから、まことの神を信じないから、サタンの子となって、人々を仲たがいさせる。不和にすることへ用いられてしまうのは致し方ないことだ」と言えるかもしれませ

んが、神様をイエス様を信じるという人々が、私たちが、そのようなことに用いられ使われているならば、どのようにして、「私は、神を、イエス様を信じる者だ」と話すことが出来るのかということです。

私たちは、平和のために、平和をつくるために、平和をつくる者であるために、不和をつくる者でないように注意を払いながら、何よりも祈りながら、神の御言葉によって矯正されながら、私自身が誰よりも根深い罪人であることを示されながら、示されたならば素直に認めることに努めなければならないですね。  
なぜなら、私たちの本性が、平和ではないからです。

## Part Five

平和は、私たちが、ただじっとしているだけでなされるものではありません。  
私たちの本性は平和ではなく、不和です。  
なぜでしょうか？  
罪のためです。

では、罪とは何でしょうか？  
欲です。  
ヤコブの手紙 1 : 15 に、

**ヤコブの手紙 1 : 15 (パウロ)**  
**そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。**

とある通りです。  
私たちは、この欲のために、ひっきりなしに争います。

欲と言いますと一獲千金のような所有欲や性欲や食欲等がパッと思いつくかもしれませんが、名誉欲、馬鹿にされたくない欲、人を見下げたい欲、自分を優れている者と思いたい欲、劣等感に気付きたくない欲、優越意識に留まりたい欲、認められたい欲、楽になりたい欲、勝ち誇りたい欲、気持ち良くなりたい欲、何かが満たされない心の空間をとりあえず満たしたい欲、自分の正しさを主張し人の間違いを正したい欲、現実逃避したい欲、ありとあらゆる欲が存在していることでしょう。

そして私たちは、この欲のために、争ったり、戦ったり、いがみ合ったり、葛藤したりして、人を敵としてしまいます。

**ヤコブの手紙 4 : 1 - 4 (パウロ)**

『私のものだ、俺のものだ。あなたを殺めて私が生き、私の正しさを知らしめるためにとことん対立し、出来ればあなたに死んで頂き、あなたを踏んづけさせて頂いて、踏み台にして、私の正しさを示させて頂きます、上に行かせて頂き



ます』という世の友となり、人ばかりか、結果的に自分を神の敵としてしまっている」と教えて下さいます。

じゃ、どうすればいいのか？

エペソ 4：3、尊い御言葉です。

### エペソ人への手紙 4：3（パウロ）

平和とはキリストであり、御霊とは、イエス様がヨハネの福音書で仰ったように、神の言葉、イエス様の言葉そのものです。

聖書の御言葉自体が、神の霊です。

私たちは、新年の初めの日から、神の言葉を聞き、神の言葉を考え、神の言葉に養われ、神の言葉に教えられ、神の言葉にあってこの1年間生きようとここに集まっています。

神の言葉そのものが神の霊・御霊であり、御霊なる神様のお働きは、聖書の御言葉を離れては有り得ないということです。

自分の考えよりも神の言葉、自分のこだわりよりも神の言葉、自分の正しさよりも神の言葉、自分の経歴や経験よりも神の言葉、立派な人の教えや立派な人の言葉よりも神の言葉、その神の言葉に聞くことをもって自分を砕き砕かれながらイエス・キリストを信じ続けようとする人たちが尽力しなければならない神から期待されている最も重要なことが、平和をつくることです。

謙遜が求められ、自己否定が先で、人を自分より優れた者と思うイエス様のような姿勢が問われる決して楽ではない狭い道を生きることになるでしょう。

でも、それが神の御旨であるならば、私たちは投げ出すわけにはいきません。

### Conclusion

教会というところは、いつも平和でしょうか。

違うと思います。

罪人が、そこで一緒に生きているからです。

葛藤、いざこざ、もつれ、もんちゃく、もめ事、憎しみが、教会の中にもあります。

でもその時、私たちは、不和を起こす人、争いを促進させる人、もつれをさらにもつれさせる人としてサタンに用いられるのではなく、平和をつくる者として生きる、エゼキエル書の「その両方をつなぎ、一本の杖とし、あなたの手の中で一つとなるようにせよ」という御言葉に相当する生き方、そういう生き方を選び取って行く人、エゼキエルのような生き方を生きるよう父・御子・聖霊の神から求められていますし、そう生きられたら、どんなに幸いで祝福であろうかと思えます。



家庭においても、職場においても、学び舎においても、おかれたその場において、私たちゆえに神の平和がなされ、争いが止み、憎しみと妬みといがみ合いが止み、戦争が止み、平和の絆で結ばれて一つとなり、あなたの手のうちで北と南が西と東が一つとなり、ユダとイスラエルが互いに愛し合いながら一つとなる。

ひび割れた、破れ裂け散っていた人々が心を一つにして一つ所に集まり、一つであることに尽力し、喜びと真心をもって食事を共にした初代教会の天国の生き写しのような人の共同体を建て上げる、そんな人生を生きる私たちであればと、「わたしの手の中で一つとする」と仰った主に祈り求め生きる1年でありたいと願います。

今年1年間テーマソングを歌い続けていく中で、その内容を主の前に吟味する平和の人でありたいと願います。

お祈りいたします。

祝祷：エゼキエル書37：19（見よ～）